チェックポイントシート　（解答例）　アセスメント及びニーズの把握の方法 ワークシート　**神谷　花子**　NO.2-4

（アセスメントで明らかにするもの）

課題分析標準項目	状　態	原 因		問　題（困りごと）	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	ニーズ番号（優先順位）
健康状態	病名：脊柱管狭窄症、変形性膝関節症、陳旧性脳梗塞、糖尿病、高血圧症 主治医：長谷川内科クリニック　月2回受診。他に整形外科にも月1回受診。 かかりつけ歯科医：駅前歯科クリニック。部分義歯作成以降通院なし かかりつけ薬局：本町薬局 服薬：降圧剤と鎮痛薬。時々飲み忘れがあり長女が土日に確認 麻痺：左上肢に軽いしびれがある。（利き手は右） 痛み：座骨神経痛、腰痛があり立ち上がりに支障。膝の痛みもある。手足のしびれ。 拘縮：なし 身長：155㎝　体重：42㎏　BMI：17.48	物忘れ 陳旧性脳梗塞 脊柱管狭窄症 変形性膝関節症 食べる量が減っている。惣菜が中心で一人の時は昼食は食べない事がある。	利用者	膝が痛くて、手足の痺れがあるので動く気になれない。転んで骨折し易いのも心配。	痛みが和らぎ、病状が安定し健康に生活したい。	1
			家族	(夫)痛がっているのをみているのは、つらい。 (長女)痛みが強くなると、一日何もせず布団の上で座って過ごすことが多くなって心配。		
			意見	痛みや転倒を恐れ外出や、活動の機会が減り更に物忘れが進むことが心配される。 薬の飲み忘れを防ぐことで、血圧の安定や痛みの悪化防止が期待できる。ＢＭＩからみると低栄養が心配され、水分を制限しているので脱水も心配される。バランスの良い食事により低栄養を防ぎ、脱水を防ぐことで、脳梗塞の再発防止や体調が整い物忘れの改善や体力向上が期待できる。		
ADL	食事：手にしびれはあるが茶碗は持って自力で食べる。 排泄：朝と夜トイレまでの移動を夫に付き添ってもらう。 入浴：浴室までに段差があり、浴槽への出入りのまたぎが難しく、長女が土曜日か日曜日に来て介助する。 更衣：概ね時間をかけて一人でするが、身体が硬く靴下は夫に履かせてもらう。 整容：朝、台所で洗顔も歯磨きも、部分入れ歯も自分で洗う。 移乗：便座への移乗は一人でしているが不安定なため、時には介助が必要。 移動：屋内は段差がなければつかまり歩行で、見守り。屋外は歩行見守り。受診はタクシーで移動。 寝返り：つかまれば可 起き上り：つかまればできるが、夫に起こしてもらい二人で転びそうになったことがある 座位保持：自立 立位保持：自立も直ぐにつらくなる。 階段昇降：つかまれば一人で出来る（夜間、トイレ移動時に	陳旧性脳梗塞 脊柱管狭窄症による座骨神経痛で歩行が不安定。トイレまでの移動に段差がある。 浴槽が深い。夫は介護未経験。	利用者	転んで骨折し易いので、歩きたくない。	転ぶ心配がなく歩けるようになりたい。	2
			家族	(夫)身体が硬く手が届かないので手伝ってやらないと靴下がはけない。 (長女)仕事があるので、お風呂は週に一回しか手伝えない。		
			意見	家の中は段差が多く、歩行も不安定で転倒のリスクが高い。夫は介護未経験、長女の介護ができる日が土・日に限られている。 住環境が移動しやすいようになれば、転倒を防ぎ、自立できる部分が増える可能性がある。また、痛みが緩和されれば動く機会も増え、意欲も高まる可能性がある。		
IADL	調理：数回したものの、ほとんどしていない。夫が炊飯をする 洗濯：していない。日曜日に長女が訪問して行う。 買物：していない。日用品は長女、惣菜は夫が買ってくる。 掃除：していない。日曜日に長女が訪問して行う。 金銭管理：夫が行う。 電話：かかってきた電話をとることは可能。 交通機関の利用：一人では難しい。受診時はタクシー利用。 車の運転：運転経験なし	脊柱管狭窄症による座骨神経痛やかしにしびれがある。 味付けが以前と変わったと言われ、自信をなくした。 夫は家事をしたことがない。	利用者	足が痛くて動く気にならないので、家事も手につかず困る。 料理はしたいけど、味付けに自信がなくなった。	好きな料理や、お菓子作りが出来るようになりたい。	1・3に関連
			家族	(夫)料理の味付けに文句を言ったことが失敗だった。料理をしなくなり　困った。 (長女)すきだった料理ができずつらいと思う。		
			意見	脊柱管狭窄症による座骨神経痛により意欲が低下し、加えて調理の味付けに自信を失った事で、好きな調理やお菓子作りが出来なくなっている。痛みが軽減する事や、好きな調理や教え子と一緒にお菓子作りができれば、自信が取り戻せる可能性がある。 家事経験のない夫も、方法などを覚えることができれば、夫婦で助け合える可能性がある。		

認知機能や判断能力	何度か調理をしたが味付けが毎回違う。同じ事を繰り返し話したり聞いたりする。タンスに自分の持ち物を出し入れしたり、外出時に手提げ袋の中身を出したり入れたりを繰り返す。 行動・心理症状はない。	物忘れ。 主事意見書では、認知症自立度が Ⅱａ。	利用者	最近、動かないせいか、頭がボーっとしている時があるので不安。	薬の飲み忘れがないようにしたい。	1に関連
			家族	(夫)物忘れをするようになってきたのが心配。 (長女) 時々、薬の飲み忘れがあるので心配。		
			意見	低栄養や水分を制限していることや、外出しなくなり、日中一人で過ごすことがあり、刺激が無く物忘れが出ていると予測される。低栄養や脱水を防ぐことや、外出など刺激が増えることで物忘れの進行を防ぐ、若しくは改善が期待できる。		
コミュニケーションにおける理解と表出の状況	視力・聴力：問題なし。 痛みが激しいときは、話がかみ合わないことがある。	脊柱管狭窄症による、座骨神経痛があり、我慢強いが時折強い痛みに襲われる。	利用者	最近、動かないことや出かけることもないので頭がボーっとしている時があるので不安。 痛みが強いと尚更ボーっとする。	**痛みが和らいで、会話を楽しみたい**	1・11と関連
			家族	(長女)痛みが強くなると、一日何もせず布団の上で座って過ごすことが多くなって心配。		
			意見	痛みが和らぐことや、外出や他者との交流の機会が増えることで会話が楽しめ、痛みの緩和の相乗効果も期待できる		
生活リズム	保育士や子育てしたいた時からの習慣で6時半には目覚める。 身支度をしている間に夫が朝食を準備してくれ７時半には食べる（夫が休みの時は８時半）食器を洗い、その後はテレビを観て過ごし、一人の時は昼食がお菓子で済ますことがある。広告を眺め読み終わるとゴミ箱になるよう折る。新聞は料理の記事だけ読む。夫の帰宅が早い時は17時、遅い時は19時くらいに夕食を食べる。就寝は21時。昼夜逆転はない。	夫の仕事により夕食の時間が変わったり、お昼に一人だと昼食を食べない。	利用者	一人で食べる食事は美味しくないし、動かないのでお腹も空かない	**排泄の失敗や転ぶことがなくくトイレに一人で行きたい**	1・2・13と関連
			家族	(夫) 昼間一人で居ると食べなかったり、何もすることも話すこともなく仕事を辞めた方が良いのかと悩む		
			意見	毎日三食をしっかり食べ、夫が要ればトイレに行く時に転ぶ不安もなく水分も制限することがないと予測できるが、夫も大工仕事が生きがいでもあり、トイレ移動する際に転ばない環境と歩行機能が向上することで水分を控えることなく適量摂取により脳梗塞の再発も期待できる		
排泄の状況	尿・便意はあるが、痛みのため思うように歩けず間に合わないことがあった。 トイレは寝室の横にあるが、トイレまでのアクセスに段差がある。 排便は4日に1回程度。	**脊柱管狭窄症による座骨神経痛で、歩行が不安定。痛みの強い時は、立ち上がることも歩く事もできず、布団の上で座って過ごすことが多くなっている。**	利用者	一人でいる時は、トイレに行くのに時間がかかり漏らすのが心配。	**せめて、トイレは自分で失敗せずに用足しができるようになりたい。**	1・2・13と関連
			家族	(夫)昼間、仕事に行くとトイレに付き添うことができず可哀そう。 仕事を辞めて、妻の世話に専念したほうが良いかと悩む。		
			意見	料理の味付けに自信を失い、排泄も失敗が続くと更に自信を喪失し意欲の低下が進む恐れがある。一人でもスムーズにトイレまでの移動ができれば脱水や自信喪失を防げる可能性がある。併せて、痛みの緩和や歩く力がつけばよりその効果が期待できる。		
清潔の保持に関する状況	入浴は週に一度（土か日）。整容は朝、台所で洗顔と歯磨きをする。爪や皮膚に異常はない。足の爪は夫が切る。寝具や衣類の交換はや洗濯は週に一度長女が行う。	**入浴は長女が介助するが仕事もあり休みの時しかできない。夫は介護や家事の経験が無く難しい**	利用者	出来れば週に2回はお風呂に入りたいけど、娘も仕事があるので負担は掛けたくない	**家族に負担を掛けずにゆっくりお風呂に入りたい**	**1･2･11と関連**
			家族	(長女) もう一度くらいお風呂に入れてあげたいけど、仕事があってこれ以上は難しい。お父さんでは難しいとお思う。		
			意見	長女は仕事があり援助には制限がある。長女に負担を掛けずに入浴回数が増えることで、痛みやしびれの緩和効果も期待でき、現在の良好な皮膚状態も維持できる可能性がある。		

口腔内の状況	前歯の上が4本部分入れ歯。 歯磨きは自分でしている。口腔内に異常なし。		利用者			
			家族			
			意見			
食事摂取の状況	普通食摂取。食べる量は減っている。医師より低体重なので糖尿病食は摂らないで、バランスの良い食事で栄養改善を図るよう言われている。また、高血圧があり減塩食の継続も指示されている。水分量は700mlで、トイレが近くなるから控えている。	**糖尿病は安定した状態。食べる量が減っており、昼間1人になるのでお腹が空かないのでお菓子だけのことがある。 トイレまでの移動に段差があり、歩行が不安定で、昼間夫が不在になる。一度間に合わず失禁した事がある。**	利用者	一人で食べる食事は美味しくない。トイレが気になるので水分は控えている。	**たまには、子供や孫たちと、食事を美味しく食べたい。**	1・3に関連
			家族	(夫)調理などしたことが無いし、糖尿病の食事など作れない。		
			意見	低体重なので糖尿病食の提供は必要はないが、ＢＭＩからみると低栄養が心配され、水分を制限しているので脱水も心配される。 孤食になることを減らすことで、「美味しい」と感じる食事ができ食欲や意欲の向上につながる可能性がある。 バランスの良い食事により低栄養を防ぎ、脱水を防ぐことで体調も整い物忘れの改善や体力向上が期待できる。		
社会との関わり	今年の4月頃より閉じこもった生活をしている。家庭内では簡単な調理や片付けを行う。 長男の工務店で夫は働いているが、長男の訪問は不定期。長女は近所に住んでいるが共働きのため、土・日のみ訪問。 町田さんという、ハイキング仲間でお茶のみ友達がいるが、4月以降来ていない。 保育士をしていた時の教え子が、自分の子供を連れて、年に何回か訪れる。2月以降きていない。	脊柱管狭窄症による座骨神経痛で歩行が不安定。一人では外出できない。町田さんや、教え子が最近来なくなった。	利用者	友達とハイキングに行けなくなったし、教え子にも会えないのが寂しい。	好きなお菓子作りや、お友達とハイキングを楽しめるようになりたい。	3
			家族	(長女) 共働きで、土・日にしか顔を出せない。		
			意見	座骨神経痛で動くことも、外出の機会が減り廃用傾向にある。 友人や教え子に会えないことで意欲の低下が心配される。 痛みの緩和や外出の機会、友人から訪問してもらえることで、楽しみのある生活を取り戻せる可能性がある。		
家族等の状況	夫が介護しているが、家事は全くしたことがないが、最近は惣菜を買ってきたり、ご飯を炊いたりしている。不定期だが、隣町で工務店を経営している長男のところで大工仕事をしている。すこし、身体が弱くなっている。頑固な性格。 長女は近所に住み、土・日に訪問して支援してくれる。	夫は家事や介護未経験。不定期だが日中仕事で不在になる。 長女も仕事があり支援できるのは、土・日に限定。	利用者	布団から起きる時にお父さんに手伝ってもらい、一緒に転びそうになったことがある。	あまり娘たちに、負担を掛けずに夫婦で過ごしたい。	3に関連
			家族	(夫)家事の経験も、介護の経験もないので、今の自分に出来ることは少ない。 (長女)長女なので何とかしなければいけないけど、仕事があるので土・日くらいしか行けない。		
			意見	家族の協力は必要だが、提供できる内容や時間に制限がある。 夫も高齢で身体も弱くなっているが、負担の少ない家事を覚えてもらうことで、二人で住み慣れた自宅での生活がしやすくなる可能性がある。 家族に負担が大きいことや、家族支援を継続するためには、負担軽減を考える必要がある。		
居住環境	持ち家２階建て。自室は１階にあり、１階部分で生活している。布団で寝起きしている。2階には上がらない。段差が多い。	トイレの入口や廊下から居室までに段差がある。お風呂の浴槽が深い。 歩行が不安定。 布団のため寝起きが困難。	利用者	段差が多くて、家の中を動く事も億劫になる。	転ばず、家の中を一人で動けるようになりたい。	2に関連
			家族	(夫)自分が居ない時にトイレまで段差があるけど付き添えない。自分は大工なので、妻が困らないように工夫したい。		
			意見	トイレまでの移動に段差があり、トイレが近くなるとの理由で水分を制限したり、動く事が少なく廃用性を招いている要因の一つでもあり、お風呂場も含め住環境を整え、転倒の予防や脱水防止が必要。		
その他留意すべき事項・状況	経済：本人の年金　厚生年金　15万円／月 　　長男家族、長女家族からの支援も可能。 ストレス：病気が悪化したために、不安を感じている 意欲：2ヶ月くらい前まで調理していたが、 　　自信を無くしている	**食事の味付けに夫が文句を言ったことで自信をなくした。 痛みも伴い意欲が低下。**	利用者	料理は好きだけど味付けに自信がなくなった。痛みもあって気持ちも乗らない。	**痛みが和らいで好きな調理やお菓子作りをやりたい**	1・3に関連
			家族	(夫)料理の味付けに文句を言ったことが失敗だった。料理をしなくなり　困った。 (長女)すきだった料理ができずつらいと思う。		
			意見	調理の味付けに、夫からの苦言もあり何よりも痛みによって意欲低下が心配される。誰かが一緒に調理やお菓子作りをしてくれること、痛みが和らぐことで自信と意欲が取り戻せる可能性がある。		